

GPA の活用について

(平成 25 年度までの入学生用)

教育開発支援室（教務部内）

本学は、学生の皆さんが主体的に学ぶことを支援するとともに、教育の質を保証するために、2013 年度より GPA を UNIVERSAL PASSPORT の「マイステップ」を用いて全学的に導入しました。「マイステップ」で必ず記入し、次のようにご活用ください。

1. GPA とは

GPA (Grade Point Average) は世界的に用いられている成績評価です。

グレードポイント (GP) は、100～90 点を 4.0、89～80 点を 3.0、79～70 点を 2.0、69～60 点を 1.0、59 点以下を 0 として換算します。

表 1 評定、点数、評価基準、GP の関係

評定	点数 (100 点満点)	評価基準			GP (科目の評点)
		到達目標	成績	判定	
優	90 点～100 点	ほぼ完全に達成	きわめて優秀	合格	4
	80 点～89 点	十分に達成	優秀		3
良	70 点～79 点	概ね達成	良好		2
可	60 点～69 点	最低限達成	最低の合格可		1
不可	59 点以下	達成していない	合格不可	不合格	0

※「無資格」「放棄」の科目は、GP=0 とする。

そして、適用除外科目を除く卒業要件で履修登録した科目について、次の計算式によって GPA を求めます。小数点以下第二位まで求めます（小数点以下第三位を四捨五入）。

$$\text{GPA} = \frac{\text{「秀」の単位数} \times 4 + \text{「優」の単位数} \times 3 + \text{「良」の単位数} \times 2 + \text{「可」の単位数} \times 1 + \text{「不可」の単位数} \times 0}{\text{履修登録した科目の単位数合計（「不可」「無資格」「放棄」を含む）}}$$

注) 計算式の「秀」は評定の「優」の 90 点～100 点、計算式の「優」は評定の「優」の 80 点～89 点を意味する。

適用除外科目は以下になります。

- ① 認定科目（「認定・不認定」等で評価する科目）

- ② 編入学又は転入学した際の単位認定科目
- ③ 本学入学前に修得した単位認定科目
- ④ 留学により修得した単位認定科目
- ⑤ 外国語特別単位認定制度により修得した単位認定科目
- ⑥ 「学都仙台単位互換ネットワークに関する協定」により他大学で修得した科目
- ⑦ 履修取消期間中に履修取消願の手続きをし、取消を認められた科目
- ⑧ 成績提出期限までに成績の評価をすることができない科目
- ⑨ 学部学科等が指定した科目（ある場合は、別にお知らせします）

なお、資格要件で履修登録した科目は含まれませんので、ご注意ください。

2. GPA を求めてみよう

UNIVERSAL PASSPORT の「マイステップ」に入り、ステップ名「GPA-TFU 版 2013（成績判定・学習ふり返し）」を用いて、各年度の年度 GPA と在学中の全期間の通算 GPA を求め、記載しましょう。その際、「GPA の計算の仕方」や「GPA 自動計算」（本学ホームページの TFU リエゾンゼミ・ナビ『学びとの出会いの』の「GPA」に掲載）を用いると、便利です。

GPA の計算の仕方がわからない場合は、リエゾンゼミや専門演習の担当教員、学修創造支援室又は教務課に確認・相談してください。

3. 2.00 以上の GPA をめざそう

世界的には、目安として、通算 GPA 2.00 以上が望ましいレベルとされています。

そこで、目標として 2.00 以上の GPA をめざして学修に取り組みましょう。

それには、安易な履修放棄を避け^{*1}、自ら積極的に学修し、学修目標の達成と向上をめざすことが望まれます。

*1) 履修放棄が多いと、GPA は低くなります。

4. 卒業時の通算 GPA は 1.50 以上が望まれる

卒業時の通算 GPA は 1.50 以上となることが望まれます。

5. GPA によって自らの学修状況を知ろう

GPA により、自らの学修の到達目標の達成レベルを知ることができます（表 1）。

学修到達目標の達成レベルを高めるよう、授業時間外学修（予習・復習など）、学修行動（主体的な授業ノート、文献検索や資料調べ、レポート作成、発表、質問、ディスカッションなど）、実践的学修（現場・実地での観察・聞き取り・調査、実習など）をふりかえり、具体的な目標と行動計画（どのようになっているか、何をいつまで行うか）を立て、主体的に自己管理して取り組むようにしましょう。

また、年度 GPA の推移を把握しましょう。もし下がっている場合は、その原因や背景をふりかえり、学修行動や学修意欲を高めるように取り組みましょう。

6. 通算 GPA が低い場合は、相談してみよう

通算 GPA が低い場合は*2)、学修創造支援室の支援員、リエゾンゼミや専門演習の担当教員、ウェルネス支援室のカウンセラー、学生相談室の相談員などに相談してみましょう。

学修創造支援室の支援員、リエゾンゼミや専門演習の担当教員は、学修上の悩みや学修に専念できない事情について、親身になって相談にのり、一緒に考え、アドバイスをします。

リエゾンゼミや専門演習の担当教員には、UNIVERSAL PASSPORT の「クラスプロフィール」の「Q&A」機能を用いて自分の学修について質問することもできます。

また、ウェルネス支援室（1号館1階の保健室内）では、カウンセラー（臨床心理士）が皆さんのさまざまな悩みの相談に応じています。

学生相談室（1号館1階の保健室の隣）では、学生相談員（臨床心理士等）が主として心の問題について相談に応じています。学生相談室の利用を希望する場合は、保健室に申し込んでください。

なお、通算 GPA が極端に低い場合や修得単位が極端に少ない場合は、教務課、学修創造支援室、リエゾンゼミや専門演習の担当教員より学修状況について問い合わせることがあります。

*2) 履修放棄が多い場合も GPA は低くなります。その場合、履修について見直しましょう。

7. 通算 GPA が極端に低い場合は、進路について考えてみよう

3・4年生で、通算 GPA が極端に低い場合は、卒業するのにかなりの努力がいる状態といえます。履修や学習、進路についても一度よく考えてみましょう。

その際、リエゾンゼミや専門演習の担当教員、学修創造支援室、ウェルネス支援室のカウンセラー、学生相談室の相談員も、話を聞いて相談にのってくれます。

なお、本学には、通学制に在籍しながら通信教育部との学内単位互換制度を用いて学外地域に長期に滞在して地域貢献活動や地域共創に関する学修を行う道、海外留学・海外研修の道、休学制度を利用した山村留学・インターンシップ・海外留学の道、通信教育部に転籍して自分のペースで学ぶ道などもあります。

8. お問い合わせ

ご不明の点は、遠慮なく、教務課、学修創造支援室、リエゾンゼミや専門演習の担当教員などにお問い合わせください。